

会議録

会議の名称	平成29年度 第2回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成29年10月4日（木） 午後7時から午後8時30分
開催場所	保谷庁舎 1階1階会議室
出席者	委員：赤澤委員長、廣瀬副委員長、岸上委員、島田委員、 中平委員、西田委員、山本委員、中村委員、田邊委員 事務局：田中文化振興課長、栗林文化振興係長、圓田文化振興係主事
議題	1 平成29年度 第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）について 2 「平成29年度 施策・事業評価（平成28年度分）」調査結果について 3 その他
会議資料の名称	【配付資料】 資料1 平成29年度第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案） 資料2 「平成28年度施策・事業評価（平成28年度分）」評価結果報告書 ＜参考資料＞ ・平成29年度第17回西東京市民文化祭「オープニングイベント」チラシ ・西東京市民文化祭総合プログラム
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会議内容	
《開会》 1 平成29年度 第1回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）について ○委員長： ・議事録の内容については問題ないが、語尾表現について何か所か修正していただきたい。 ・「委員会の開催等について」の2つ目の意見では、「～18時の方が都合のよい方もいるのでは？」としたい。 ・また、同じく3つ目の意見は「会議前に委員長、副委員長と事務局の打ち合わせがあるので、19時開始のままでいきたい。」と修正。事務局の意見について「～短い時間で活発に議論いただけるよう準備をしたい。」としたい。 ・最後に、2ページ目最後の日程調整については、「～時間はいずれも19時開始、場所の変更の可能性もありうるので、その都度確認の連絡をする。」としたい。異論がなければこのように修正していただきたい。	

○委員：

- ・常に修正の意見にあったような柔らかい表現にすることか。

○委員長：

- ・これまでの表現と少し異なったので提案させていただいた。
- ・会議録は文章の修正後、後日ホームページにて公開する。

<全員承認>

2 「平成28年度施策・事業評価(平成28年度分)」評価結果報告書

- ・事務局が「平成28年度施策・事業評価(平成28年度分)」評価結果報告書について説明

【基本政策1 施策1 多様なメディアによる情報提供①】

○委員：

・1-1-1の「秘書広報課」の実績に「担当課の実施する文化芸術関連のイベントを」とあるが担当課だけでなく市民のイベントの発信についても評価項目として入れてほしい。掲載してくれる場合もしてくれない場合もあるが、原稿を書いた上で掲載されなかったことがあった。今後の展開では市民も含まれているので、市報の役目は担当課からの伝達だけでなく、市民からの情報や広報も含むので、考慮していただきたい。同じ記事を武蔵野市では掲載してくれた。

○委員：

- ・調査票の評価ほとんどがAになっているが、内部評価のみなのか。

○事務局：

- ・基本的に各施策の担当課が目標に対しての自己評価しているものである。

○委員：

・評価がAばかりだと甘いように感じる。例えば、1-1-1の「公民館だより」の市民スタッフとして参加させていただいたことがあったが、企画を出して、中身は市民スタッフに全て頼んでいるものの、市民スタッフ側から掲載したいことを提案しても却下されてしまう。市民スタッフにまかせっきりである一方で、公民館だよりの方向性に縛られてしまう感覚が強い。市民の中には快く書いていない方もいるのではないかな。

○委員長：

・本委員会のコメントがそのまま通るわけではないと思うが、具体的な修正箇所について提案し、事務局の方でご検討いただきたい。

○委員：

・「公民館だより」については、“市民スタッフとともに”の部分をしっかり取り組んでいただきたい。

○委員：

- ・ユーザーの視点で1-1-3スマートフォン用まち歩き・防災アプリに対し意見を言って

もよいのか。

○委員長：

・もちろんである。

○委員：

・西東京の情報発信として、広報は10年前に比べてビジュアル化され、よくなっていると思うが、市民のイベント欄が極端に小さくなっていると感じる。

○委員：

・健康面などは充実していると思うが、文化面が少ない。

○委員：

・広報とは別に文化情報誌を作るように要望したこともあったが、別紙のチラシを折り込む形でもよいので、文化についての情報を多く提供できるようにしていただきたい。

○委員：

・広報がカラーになったことで読みやすくなったと感じるのか、市民にアンケートを取ってもよいのではないか。白黒の方がよいのであれば、ページ数を増やせる可能性もある。

○委員：

・文化芸術の部分が非常に少なくなった中で、担当課の情報が優先されており、掲載の基準を明確にしていきたい。カラーを白黒にすればページ数は増やせるのか。

○事務局：

・こちらでは分かりかねるので、広報課に意見をまとめて提出させていただく。

○副委員長：

個人的にはかつての2色刷りよりもカラーの方がよいので、カラーでページ数を増やしていただけるとよい。

○委員：

・西東京市の広報は他市よりも見劣りし、まとまりがないと感じる。市民まつりのポスターも若者に配慮しているとは思えないものである。人口20万人の都市として、デザインや質にもこだわったほうがよいのではないか。

・そのようなことも含めて、文化振興の中に市全体のイメージアップを入れていきたい。広報がカラーになったことはよかったと思うので、文化芸術の情報に関する広報も予算を付けて増やしていただきたい。

○副委員長：

・同感である。

○委員長：

・現在、広報誌は秘書広報課の方で全て編集しているのか。それとも外注しているのか。

○事務局：

・基本的には担当課から大まかに載せたいものを提示し、広報課と業者とやり取りしながら、広報の1面の場合は校正を3～4回実施し、決定している。

○委員長：

・意見にあったようなデザインや質が悪いのは何が原因なのか。

○委員：

・市の広報はそこまで悪いと思わないが、ポスターなどを見るとデザインなどを良くしてほしいと感じる。

○委員：

・個別のイベントのポスターは市の担当によるものではなく、実行委員会等が独自に作成しているものであり、全てが市の責任ではない。印刷物として、一律に考えるのではなく、選別して考えるべきである。

○事務局：

・広報と各担当課が関係するイベントのポスターは別々に考えていただいた方がよい。区民祭りであれば、市も確認するが、実行委員会を主体として決めていくことになる。市民からの目線や意見も実行委員会に伝える必要があると思うが、意見を受けた後の展開は各々の判断となる。

○委員：

・個人の好みやセンスもあるものなので一概には言えないが、時代にあったものを作っていただきたい。

○委員：

・市報は皆に関わるものなので、他市よりもよいものを作ってもらいたい。

【基本政策1 施策2 幅広い年齢層が参加できる体験・鑑賞機会の充実②】

○委員長：

・国際交流や多文化共生を実施しているということだが、実際に外国人市民は増加しているのか。

○事務局：

・現在市内に4,000人、75か国程度の外国人の方が住んでおり、毎年400～500人程増えている状況である。

○委員長：

・以前、聞いた時には3,000人程だった。多文化共生の取組は盛んになっているのか。

○事務局：

・多文化共生の支援の必要性は感じている。様々な事情で日本に訪れる方がいるため、日本での生活になじめない方も多い。子どもには日本語教室の実施などを行っている。また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催も予定されており、西東京市はオランダのオリンピック委員会とも連携を予定しているため、市民にも海外の文化や習慣を体験していただく機会もあると考えている。

○委員長：

・外国人の国籍はやはりアジア圏が多いのか。

○事務局：

・中国、韓国、フィリピンなどのアジアの方が多いが、アメリカやアフリカ、中南米の方など、かなり多様化してきている。

○委員：

・1-2-1でワークショップに参加した子ども達にアンケートを実施しているとあるが、学校単位でのニーズは把握しているのか。ワークショップに参加するような子どもは元々文化芸術への興味や意識が高いと思う。

○委員：

・市のホームページについて、2年前に作成された動画「あの惑星（ほし）の名は」はよくできている。市民より手書きの原稿を募集し掲載していることもあるので、動画募集もしてはどうか。動画を観光に活用している自治体も多く、地方のまちおこしになっているようである。専門家の力も必要だが、動画が新しい情報発信になるのではないか。加えて紹介させていただくと、私が作成した「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」も見ていただきたい。

○委員：

・1-1-3の市のフェイスブックの投稿数やアクセスが減少しているが、評価では「分かりやすく伝えることができた」と評価Aになっているのはどのような理由か。

○事務局：

・全体数は増加しているが、ホームページのアクセス件数、イベント情報関連、文化施設関連情報など内訳の集計が難しくなったために、集計できた分のみ掲載している。今後、数字が割り出せればご報告したい。

○委員：

・SNSは頭打ちになっていると言われているが、活用の現状についてはどうか。

○事務局：

・SNSについては、まだ検討が上手くいっていない。

○委員：

・市がフェイスブックで情報を発信しているなど、SNS 自体を見てもらう工夫も必要である。

○委員：

・防災情報が SNS で配信されるようになったのは便利だと思ったので、そこを上手く利用できるのではないか。

【基本政策 1 施策 3 子供達の参加の機会の充実③】

○委員：

・以前にも指摘したが、西東京市と国の「子どもたち」などの表記が統一されていない、市としても統一できていない。

○委員：

・最近、子供の表記は漢字にしなければいけないことになったが、学術用語などは異なり、まだバラツキがある。時代とともに変わるものなので調べていただき、統一すればよいと思う。

○委員：

・障害の「害」の文字など、西東京市としての見解が一致している必要がある。

○委員：

・小学校にブラスバンド部があるのは市内で碧山小学校のみだが、文化芸術を学ぶ環境があることは非常によいと思っている。保護者の負担や校長先生の異動などでなくなるようなことがないよう、市として働きかけることはできないか。

○事務局：

・意見をお伝えすることはできるが、ブラスバンド部に限らず、学校ごとの意向に任せている。熱心な先生などがいれば活動が継続もできるが、先生の異動などでそれが難しくなるのは事実である。また、最近では教員の時間外のクラブ活動の関わり方など、学校としても制限せざるを得ない状況などもあると聞いている。保護者も協力を得ることで存続させようという学校や校長の判断によって決めていることがあることも聞いている。

○委員：

・小平市は中学校 2 校の間で指導する教員を交換しながら確保しており、コンクールで金賞を取るなどの成果を上げているようである。

○事務局：

・教員の配置については市の範疇ではないため、その仕組みについては分かりかねる。

○委員：

・文化祭実行委員会をしているため、発表の機会としてどれだけ魅力的にできるか努力している。校長先生の異動などで決めるものではなく、子どもたちが文化芸術を学ぶこと

で子どもの発達にどれだけ影響があるのかが重要であると思う。

○委員：

・今まで国の伝統工芸体験を市内では２校しか実施していないが、申請すれば国から予算が出て子供たちが体験できる取組である。広報などでもっと市内の多くの方に知ってもらい、体験していただきたい。

○委員：

・ブラスバンド部は音楽教員が指導しているのか。教員が行う場合は、技術的な問題だけでなく、時間外の対応が難しい場合もあると思った。

○委員：

・外部の人である。

○委員：

・練習のために朝早くや夜遅くまで練習するため、熱心な校長先生や保護者の理解によって維持されているようである。

○委員：

・市内では保谷高校のレベルが高い。発表の機会を魅力的にして、情報発信に力を入れていただきたい。

【基本政策１ 施策４ 幅広い年齢層が参加できる体験・鑑賞機会の充実④】

○委員：

・西東京市民まっりの来場者１９万人というのは確かなのか。全市民の人口に近い数字である。

○事務局：

・実行委員会によって発表された数字である。

○委員：

・来場者が多い少ないが問題ではなく、この数字を評価として文字に残すことがよいのか疑問である。

○委員：

・市で実際に計測してみてはどうか。

○事務局：

・市民まっりに対する補助金の支出しているが、運営については実行委員が主体である。

○委員：

・本委員会でこの数字を認めたことになるのか。西東京市の文化について良い議論の場であるが、この数字は認められない。

○事務局：

・昨年度は12万2千人程だった。来場者について指摘があったことは実行委員会にも伝えたい。

○委員：

・実行委員会としては、多くの来場者がいることを示して、出店者を増やす目的もある。

○副委員長：

・市の資料として載せるものであれば正しい数字を載せるべきではないのか。

○委員長：

・実行委員会の示唆ということでも良いと思う。

○委員：

・評価について、実績では参加者数や実施できたかどうかの記載のみだが、本来であればこういった内容のものができたのかがあると分かりやすい。

○副委員長：

・少し書き加えていただきたい。

○委員長：

・参加者数だけでなく、出店数やイベント数、まつりの構成など内容のわかるものを掲載した方がよいのではないか。

○委員長：

・約〇〇人とぼかしたほうがよいのではないか。

○副委員長：

・補助金を出すからにはある程度正確さを求める必要があると思う。

○事務局：

・実績も含めて評価の表現についてより分かりやすいように修正を検討したい。

【基本政策1 施策5 様々な人が参加しやすい機会づくり⑤】

○特に意見なし

○委員長：

・意見があった場合には事務局までご連絡いただきたい。

《閉会》